

## 豊かな人間関係のもとで充実した生活を送るために ～性に関する指導を通して～

江 角 聡 子

### 1 はじめに

本校の特別支援教育では、「障害のある者とない者が同じ社会に生きる人間としてお互いを正しく理解し、ともに助け合い、支え合って生きていく」ことを念頭におきながら、「障害のある児童生徒が地域社会の一員として、生涯にわたって様々な人と交流し、主体的に社会参加しながら心豊かに生きていくこと」を目指している。

相手のことや自分のことを「正しく理解」するため、そして「様々な人と交流し、主体的に社会参加しながら心豊かに生きていく」ための手立ての一つとして、性に関する指導は大きな意味を持つと考える。そこで、特別支援学級においては、日常的な指導とともに、3学期を中心に性教育の授業を実施し、中学校の3年間で繰り返し指導していく方針をとっている。情報があふれている今の社会では、正しい情報やマナーを身につけることが大変重要である。また、思春期にさしかかっている生徒たちは、自分の体の変化に対してとまどい、不安になりがちであるが、成長に伴いだれにでも起こりうる変化であることも伝えていきたいと考えている。

ここでは、本年度の性教育への取り組みを振り返り、生徒たちの実態に合った性教育のよりよい進め方、生徒たちが将来自立した生活を送り、生活・人生の質をより豊かにするための指導のあり方を探求したい。

### 2 生徒の実態と指導計画

本学級は、男子4名、女子5名、合計9名の生徒で構成されている。学級の一人一人が仲間であるという意識が強く、活発に意見を出し合ったり活動したりすることができる生徒が多い。中には、人と適切な距離をとるのが苦手な生徒、見通しが持てないと不安になる生徒、視覚的な手がかりが必要な生徒、作業に補助が必要な生徒がいる。

男子はいずれも、性（異性）に対して大なり小なり興味があり、恥ずかしさも感じている様子が言動からうかがえる。インターネットや雑誌で情報を得ている生徒、体の名称や知識をかなり身につけていて、友達に教えることができる生徒もいる。

女子は、心と体の発達段階が様々であり、性に関する興味・関心もかなり個人差がある。友達どうしで異性を好きになることを話題にし、恋愛にあこがれを抱く一方、授業などで男子と一緒に性に関する話をするに抵抗を感じる生徒もいる。しかし、継続して指導することで落ち着いて授業に参加できるようになってきている。

このような生徒の実態をふまえ、今年度は次の表のような計画で指導を行った。

時数	題 材	主 な 学 習 内 容
1	プライベートゾーンとは	人にはそれぞれプライベートゾーンがあることを知り、その範囲を体感する。
1	好きになったとき	異性を好きになることはあって当然であることを理解する。好きになったらどう行動すればよいのかを知る。
2	男女の体の違い	男女の体の違いや、思春期に起こる体の変化について理解する。

### 3 実践の概要

#### 「プライベートゾーンとは」

一人一人がプライベートゾーン（個人的空間、言い換えれば自分だけの場所）を持っていることが実感できるよう、全員が両手を水平に広げてぐるぐる回りながら他の生徒とぶつからないように移動する体験をした。また、近づいても平気でいられる距離はどこまでか、全員の生徒について実験した。その際、近づきすぎるとどんな気持ちになるか問いかけ、少し近づかれただけでいやな気持ちになる人もいることを伝えた。

プライベートゾーンの個人差を調べる実験では、ふだん人に近づきすぎることの多い生徒が人から近づかれるのはいやがるという、意外な結果になった。授業後は、プライベートゾーンという言葉だけが耳に残り、日常生活で適切な距離を保つまでに至らない生徒もいる。しかし、人と話すときの距離をこちら意識して指導するようになり、結果として以前より距離をとって話ができるようになった生徒もいた。

#### 「好きになったとき」

ワークシートに書かれた質問に対し、自分だったらどうか考えさせ、発表できる生徒は答えを発表してもらった。質問と主な答えを次に示す。

①どんな人が好き？	かわいい人。かっこいい人。やさしい人。〇〇さんみたいな人。
②好きになったらどうする？	いつかは言う。どうもしない。
③なかよくなったらどんなことをする？	話をしたい。デートしたい。手をつないでさんぽをする。いっしょにカードゲームをしたい。なにもしない。
④おたがいに気をつけたいことは？	けんかをしないでなかよくする。

生徒の反応には非常に個人差があり、積極的に発表する生徒、発表を聞いているだけでなかなか答えが書けない生徒、真剣に考えられる限り答えを書こうとする生徒など様々だった。「わからない」「どうもしない」などの答えが目立つシートもあり、それも一つの実態であるが、実際の思いを書きにくかった生徒もいたのではないかと思う。授業後に残って自分の気持ちを話してくれた生徒もいた。質問②を取り上げた場面では、思いを相手に伝える人もいれば伝えない人もいる、それが実ることあれば実らないこともある、ということを伝えた。

#### 「男女の体の違い」(1/2)

##### (1) ねらい

- ・男女の体の違いや、思春期に起こる体の変化について理解する。
- ・異性の気持ちや体を大切にしたり、自分の体を清潔にしたりしようとする態度を育む。

##### (2) 学習の流れ

※下線部の図・パネル・パーツは、いのちと性の授業セット「二次性徴のしくみ」(アーニ出版)を使用した。

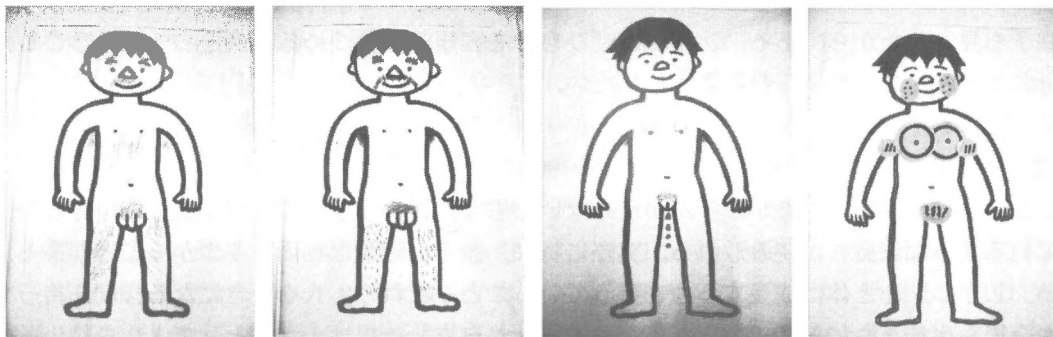
学習内容 (生徒の活動)	教師の働きかけ
①女の子と男の子、どこがちがってる？ ・どこを見たらわかる？	○男女が服を着ている図や裸になったときの図を見ながら考えられるようにする。
②体にもプライベートゾーンがある？	

<p>・見たりさわったりしてはいけないところは？ 男女で違うのはなぜ？</p>	<p>○男女が水着を着ている図を見て、体の上でのプライベートゾーンがわかるようにし、なぜ守らないといけないのか話し合う。</p>
<p>③ホルモンの働きって？ ・ホルモンとは何？どんな働きをする？</p>	<p>○ホルモンを分泌する仕組みの図を見て、信号の行き方がわかるようにする。</p>
<p>④体（外側）はどうなってくる？ ・性毛はどこにはえる？体はどう変化する？</p>	<p>○「にきび・わきげ・ちぶさ・ひげ」等のパーツを図にはっていくことで自分や異性の体について理解できるようにする。</p>
<p>⑤どんなことに気をつける？ ・自分に対しては？異性に対しては？</p>	<p>○パネルを見ながら、性器（体）をきれいにすること、友達の体も大切にすることについて話し合う。</p>
<p>⑥わかったことや考えたことを発表しよう</p>	<p>○ワークシートに書いたり、発表したりする。</p>

(3) 配慮事項

- ・全体での話に抵抗のある生徒は無理をさせず、できるところを参加させるようにする。必要に応じて男子・女子の間についたてをする。
- ・名称の理解よりも、自分や異性の成長を認めたり、自分や異性の心や体を大切にしたりしようとする態度の育成を大切にする。

「④体（外側）はどうなってくる？」を考える場面では、男子と女子の間についたてをして、それぞれ男の子の体のワークシート、女の子の体のワークシートに書き込むことにした。男子も女子も、お互いに見合ったり教え合ったりしながら完成させようとする姿が見られた。生徒によっては、にきびや性毛などのパーツをシールのようにして貼る方法をとった。黒板に貼った図にパーツを貼っていく作業も分担して行うことができた。



授業後の生徒の感想には次のようなものがあった。

- ・大人に近づいていく自分の体にいろいろなところに毛が生えることがわかりました。
- ・女性ほるものことがわかりました。
- ・女性と男性のちがいは、父さんや母さんや〇〇さん、〇〇君を見てだいぶちがいが分かってきました。
- ・ちょっとはずかしい。
- ・しょうがいがあるけどあかちゃんがうめないと思う。

### 「男女の体の違い」(2/2)

島根大学保健管理センター講師(産婦人科医師・臨床心理士)で本校スクールカウンセラーの河野美江先生により、パワーポイントを用いた説明と指導を受け、生徒から出た質問に答えてもらった。内容的には前時と重なるが、より詳しい部分もあり、今までに得た知識を定着させたり深めたりすることができたと思う。積極的に質問していた生徒もおり、「心配なことがあればいつでも相談できる」という安心感も生まれたようである。

授業以外にも、日常生活の中で指導を行う場面は多い。例えば座り方・場にふさわしい言葉遣いや話題などである。着替え方などについては、合宿やスイミングの場面をとらえて繰り返し指導している。合宿の前には「男女が服を着ている図」「裸になったときの図」(「男女の体の違い」1/2の授業で使用したもの)を用いて着替え・入浴についての話をし、生徒の反応により実態を把握することもできた。バレンタインデーの時期には、「好きになったとき」の授業とからめて、適切な行動について考えさせる機会を持った。

性に関する指導においては、保護者の理解と協力を得ることが不可欠である。「男女の体の違い」1/2の授業は保護者に授業を参観してもらった。保護者会では授業の様子を伝えた後、家庭での様子を話してもらい、情報交換を行った。性の発達から起こる子どもの行動や、それに対してどのように接しているかということが話題に出て、学年の異なる保護者が話し合えたことは有意義だった。

## 4 研究の成果と今後の課題

2ヶ月程度の期間に集中して授業を行ったので、授業と授業のつながりを感じ取ることができ、生徒は授業にあまり抵抗なく参加できたように思う。授業で学んだことを日常生活の中で振り返ることで適切な行動がとれるようになってきている生徒が見られた。授業をきっかけに、気になることを教員に話せるようになった生徒もいる。ただし、同性どうしのほうが話しやすいこともあるので、男性教員、女性教員で役割分担したり、同性だけで話し合う場面を設定したりすることが必要である。

「男女の体の違い」について、2時間目は河野先生に指導していただいたが、前の授業とのつながりがわかりにくかった生徒もいたのではないと思う。難しい内容について補足説明を加えたり、前の授業で用いた資料を「これとこれとは同じこと」と提示したりすることも考えられる。

また、今回はあまりふれなかったが、自分の生い立ち、成長の様子を知るという視点を取り入れることも必要であると感じた。自分が成長していることを実感できず、他人事のようにとらえているような様子も見られたからである。次年度はぜひ自分を客観的に見つめる機会をつくり、学習したことを自分のこととしてとらえられるようにしたい。

## 5 おわりに

「しょうがいがあるけどあかちゃんがうめないと思う」という生徒の感想からは、自分の将来を悲観しているような気持ちが読み取れる。実際に将来、彼らが困難な場面にぶつかることがあるかもしれない。しかし、心と体は成長する力を持っていること、だれでも人を好きになる権利を持っていることを今後も生徒たちに伝えていきたい。一人一人が自立した男性・女性として人生を精いっぱい生きていくために、毎年この時期に学んでいることが役に立つよう願っている。

### 参考文献

- 角田禮三(1997)「障害のある子どもへの性教育の実際」明治図書
- 北沢杏子(2005)「知的障害をもつ子どもの性教育・性の悩みQ&A」アー二出版